vinetur

8月のウイスキーオークションで、最高額となったボトルは644,528ドルで落札された

マッカランの「TIME:SPACE 84年物」が128,487ドルで落札され、これにより月間総売上高は前年同月比で16%増となった。

2026年9月7日（月）



『Whisky Advocate』が発表したデータによると、8月に国際的なウイスキーオークションで落札された最も高価な単瓶20本のハンマー価格は合計644,528ドルに達し、前年同月比で16%増加した。この増加により、2025年8月の同期間の合計額は約555,600ドルとなり、今年の数値よりおよそ88,900ドル低かったことになる。

この月間の上昇は、主に1件の落札によって牽引された。8月10日に『Whisky Auctioneer』で、マッカラン『TIME:SPACE』84年物が128,487ドルで落札された。これは8月として記録された単瓶の最高落札価格であり、リスト中の他の品目を大きく引き離して首位となった。 この1本だけで、同月の売上上位20件の合計額の約19.9%を占めた。

この数値は、単品ボトルにおける落札価格上位20件のみを対象としており、ウイスキーオークション市場全体を反映するものではない。また、落札価格にはバイヤーズプレミアムやその他の手数料が含まれていない場合もある。 こうした制限があるとはいえ、8月の結果は、コレクター向けウイスキー取引のハイエンド市場、特に希少なマッカランの限定品や、バイヤーの間で熱烈な支持を集めるその他の入手困難なボトルにおいて、引き続き堅調な動きが続いていることを示唆している。

『ウイスキー・アドヴォケイト』誌によると、市場の上位層は、より長期的な視点で見ても、ここ数年を上回る好調さを維持しているという。2026年の最初の8か月間、毎月の上位20本の単瓶落札価格の合計額は700万ドルを超えた。 これは2025年の同時期と比較して21%、約120万ドルの増加となった。同誌は、7月に競争が激化した後、8月のマッカランのオークションが同ブランドの競合他社に対するリードをさらに広げる一因となったと報じている。

マッカランは8月のトップ20リストに4本がランクインし、その合計額は214,015ドルに達した。これは同月において、どのブランドよりも高い合計額であった。 年初来、マッカランは43本がリスト入りし、合計1,558,070ドルを記録、ランキングで追跡対象となっている他のブランドを大きく引き離している。 山崎の年初来の合計額は1,344,641ドル、軽井沢は1,231,705ドルだった。

8月の結果からは、最も高価なボトルに幅広い地域からの製品がランクインしていることも明らかになった。 『Whisky Advocate』によると、アメリカン・ウイスキーは9本がリスト入りし、1月以来の月間最多を記録した。ジャパニーズ・ウイスキーは5本がランクインし、残りの枠はスコッチが占めた。この構成は、コレクターたちが、スコットランドや日本の古く希少なボトルに加え、入手困難なバーボンやライ・ウイスキーに対しても依然として高額を支払う意欲を持っていることを示唆している。

マッカラン「TIME:SPACE」ボトルに次いで、8月の落札価格第2位となったのは、8月10日に『Whisky Auctioneer』で落札された「羽生一郎のモルト・カード・シリーズ ジャック・オブ・クラブス 1991」で、落札価格は60,862ドルだった。 3位は、8月2日にユニコーン・オークションズで39,200ドルで落札された、ウィレット・ファミリー・エステート 23年熟成バーボン「ビッグフット」プライベート・バレル B57だった。 8月12日にグラスゴーのMcTear’sで行われたオークションでは、ラリック製デカンター入りのマッカラン72年「ジェネシス」が37,828ドルで落札され、8月16日のユニコーン・オークションズでは、ヴァン・ウィンクル「オールド・アドボケート・スペシャル・リザーブ」15年が34,300ドルで落札された。

その他の好調な結果としては、レネル社の「レッド・フック・ライ」23年物が32,600ドルで落札されたほか、 ウィレット・ファミリー・エステートの18年熟成バーボン「ソプレッサータ」プライベート・バレル79が28,900ドル、A.H.ハーシュ・リザーブの18年熟成が26,000ドルで落札された。「オールド・リップ・ヴァン・ウィンクル」25年デカンターは25,600ドルで落札され、「マッカラン・ミレニアム・デカンター」50年（1949年）は25,200ドルに達した。

中価格帯でも日本のウイスキーが活発に取引された。軽井沢の3銘柄が22,992ドルから23,398ドルの間で落札された。 8月28日、香港のボナムズ（Bonhams）では、山崎「純心」が21,682ドルで落札された。これらの落札実績により、総売上額ではマッカランが引き続き首位を占めているものの、日本産ウイスキーは高額オークション市場のトップクラスに位置し続けている。

8月のリストにおいて、スコッチのシェアはアメリカン・ウイスキーより小さかったものの、トッ

プを走るマッカランのボトル以外にも、いくつかの注目すべき落札事例が見られた。グレンファークラス「パゴダ・ルビー・リザーブ」1954年産62年物は、ウィスキー・オークショニアーで20,287ドルで落札された。 ハイランド・パークは、8月30日にユニコーン・オークションズで「ハイランド・パーク 50年 2020年リリース」が18,100ドルで落札されたことを受け、今年初めて月間トップ20ランキングに名を連ねた。『ウイスキー・アドボケイト』誌は、この落札価格が同ボトルの小売価格を下回ったと指摘している。

8月のデータからは、価値がいかに少数のロットに集中しているかも明らかになった。マッカランの4つの出品だけで、今月のトップ20販売総額の約3分の1を占めた。ヴァン・ウィンクルは4本を出品し、合計97,500ドルを記録した。 ウィレットは3本で84,100ドル、軽井沢は3本で69,382ドルの売上を記録した。羽生はリストに1本しか掲載されなかったが、60,862ドルという結果により、今月の最高額ブランドの一つとなった。

この報告書が発表されたのは、ウイスキー業界の一部が異なる方向へと動き始めている時期にあたる。 データに添付された解説記事によると、日常的な消費を目的としたスコッチ市場が過剰在庫の問題に引き続き直面している一方で、トップクラスのコレクター向け市場は好調を維持している。この二極化は、世界中の入札者を惹きつける希少な「トロフィー級」の資産と、供給圧力が市場心理を圧迫しているより広範な商業用ウイスキー取引との間のギャップを浮き彫りにしている。

オークションハウスは現在、秋のセールスシーズンへと移行しており、この時期には通常、注目度の高い出品物が市場に多く登場する。 『ウイスキー・アドヴォケイト』誌によると、ニューヨークのサザビーズは今月、オークションを再開する予定であり、出品物にはワックス封印されたウィレットのボトル、推定価格40,000～50,000ドルの「ベリー・ベリー・オールド・フィッツジェラルド 15年 ブラックホーク」、推定価格40,000～60,000ドルの「ボウモア 1968 アーク-54（推定価格40,000～60,000ドル）、さらにA.H.ハーシュ・リザーブ18年（推定価格20,000～30,000ドル）の金蝋封じボトルなどが含まれている。 また、「Whisky Auctioneer」では、マッカラン・アニバーサリー・モルト1928年産50年もの、ボウモア1964年産46年もの、 ゴードン＆マクフェイルの「ジェネレーションズ・グレンリベット 1940年産 70年物」など、数本の高価値ボトルを出品している。一方、ユニコーン・オークションズは、さらに希少なマッカランの限定品を多数出品している。

8月の結果を総合すると、オークション市場の上位層において、最も希少なボトルへの需要は依然として堅調であり、国際的なオークションでは、限定版のマッカラン、古酒のアメリカン・ウイスキー、厳選された日本のウイスキーを巡って、買い手同士の競り合いが続いていることがわかります。